

② 現地でのデータ入力容易

従来の方法	支援ツールの方法・メリット
紙の調査表に手書きで記入	紙の調査表と同じ入力画面が表示されるので、端末の画面をタッチして入力 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択式の項目は、プルダウンメニューで入力・修正 ▶ 文字や数値は、画面上のソフトウェアキーボードで入力

③ 調査対象建物の写真管理が容易

従来の方法	支援ツールの方法・メリット
写真や地図を見ながら手作業で建物の写真と調査表を関連づけ	内蔵カメラで撮影することで写真と調査表の関連づけが可能 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 写真データを調査表データとの対応がとれた形で保存 ▶ 調査対象建物を事後に写真で確認可能

④ 調査後の整理・集計作業が容易

従来の方法	支援ツールの方法・メリット
調査表からパソコンへのデータ入力(手作業)が必要	iPad等をパソコンに接続しデータを転送するだけで、Excel等に取り込んで即座に集計・検索が可能 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 入力作業が不要で、時間短縮と労力削減 ▶ 転記ミスが無くなり、確認時間が短縮
地図への結果記入(手書き)が必要	パソコンに転送されるデータに含まれる調査表の位置情報(経緯度)が利用可能 <ul style="list-style-type: none"> ▶ GISソフトやGoogle Earth等を用いて地図表示が可能 ▶ 地図から調査表を検索することが可能

図2は京都府福知山市で実施された模擬訓練(京都府主催)の結果を、Google Earth上で表示したものである。色のついたバルーンが調査建物の位置を表しており、色は判定ステッカーの色に対応している(赤:危険、黄:要注意、緑:調査済み)。バルーンをクリックすると、図2のように入力された調査表データが一覧形式で表示される。このため、事後に調査表について問い合わせがあった場合などは、紙の調査表の束から当該建物の調査表を見つけるという作業が不要であり、地図上で対象建物をクリックするだけで詳細な調査内容を知ることが出来る。また、前述のように調査表が写真データと関連づけられているため、当該建物の写真を確認することも容易である。

IV 震災時の活用に向けて

今後、実際の地震災害発生時の応急危険度判定の場面で活用されることを目指し、全国被災建築物応急危険度判定協議会と連携して、模擬訓練の開催等による支援ツールの試行的な利用や普及活動を実施するとともに、支援ツールの機能の改善・拡張などにも引き続き取り組む予定である。これまで、静岡県藤枝市・磐田市および京都府福知山市における実地訓練で試用して頂いており、参加者から改善に関する様々な要望を伺っている。例えば、iPhone等の小型端末機器での使用を前提として、それらでも入力しやすい画面の開発が求められている。今後も、複数の自治体の訓練での試用が予定されており、そこで収集される貴重な意見を踏まえて支援ツールの改善を実施する予定である。また、支援ツールの運用面についても、従来の紙の調査表による調査との併用を前提とした利用方法の効率化や、集計・地図化作業の効率化にも取り組んでいる。

なお、支援ツールの試用版については、Apple社の“App Store”(iOSアプリの配布・販売サイト)において公開(無償配布)を予定している。誰でもインストールして利用することが可能であるため、判定士の方々に日頃から慣れて頂くとともに、多くの方々から操作性の改善要望等を収集して改善することで、震災時に迷わず正しく操作できるよう、使いやすいツールにしたいと考えている。

支援ツールに関する詳細な情報は(独)建築研究所のWebページにある支援ツールの紹介ページを参照して頂きたい。

URL:<http://www.kenken.go.jp/japanese/research/hou/topics/oq/index.html>

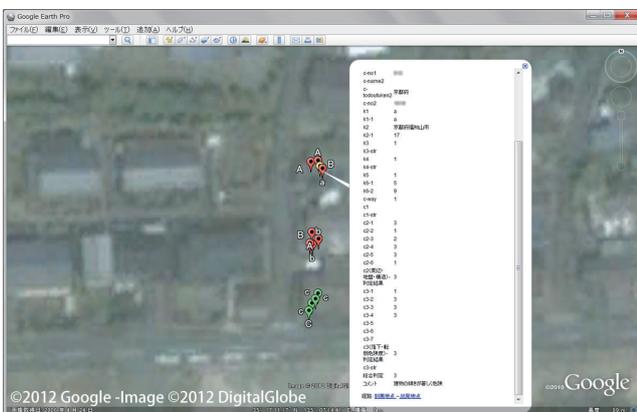


図2 調査結果をGoogle Earthで表示した例